

# 【学校研究2学年まとめ】

平成31年2月22日

## 1. 学年の取組

- ・本学級の児童は、1学期から当番活動、係活動などを通して、クラスのために働いてきた。また学級活動で、よりよい掃除の仕方について話し合い、クラスや学校のためにきれいに掃除をしようとしてきた。一方で、働くことに対して面倒に思う児童も見られる。そこで、今回の研究授業では、自分が行う仕事が、みんなの役に立っているという主人公の喜びに共感させることで、働くことへの意欲を向上させようと考えた。
- ・体験的な活動を取り入れることで、より価値に迫れるのではないかと学年で話し合った。先行授業を行う中で、展開の仕方や取り組み方を深め、共通認識をもって検討をした。(1組で先行として成田が行い、学年内で流れや発問を精選した。次に、2組で臨任研として岡本が行い、寒河江指導主事にご指導をしていただいたことを活かし、流れの変更や工夫を加え、本時を迎えた。)
- ・自己肯定感を本時のみで高めるのではなく、継続して高めていける様に意識し指導してきた。今後も継続させていく。

## 2. 授業実践について

主題 内容項目【C 勤労、公共の精神】

本時のねらい 自分を「ぼく」に投影して、自分だったらどのように考え、行動するのかを話し合う活動を通して、みんなのために役立とうとする意欲や態度を育てる。

教材名 いま、ぼくに できること (出典「新しいどうとく2」東京書籍)

授業者 2年3組 成田 雅弥



### 【授業の流れ】

- ①お手伝いに関するアンケート結果を知る。
- ②地震に襲われた「ぼく」が住んでいる町の様子について話し合う。
- ③がれきを片付けてくれた人や水を運んでくれた人の気持ちを考える。
- ④先生から春休みの宿題が出たときの「ぼく」の気持ちについて考える。
- ⑤「ぼく」が避難生活のお手伝いをする場面の役割演技を行う。
- ⑥大変だけど「ぼく」ががんばることができるのはなぜか話し合う。
- ⑦これからの生活でどのように自分の仕事をしていきたいかワークシートに記入する。
- ⑧教師の説話を聞く。

本時では、「ぼく」が避難生活のお手伝いをする場面の役割演技を行う。その際、パンを渡す「ぼく」の気持ち、パンを受け取る人の気持ち、双方の気持ちを考えさせ、周りの人の役に立とうという心情を育てようとした。



児童の振り返りより

- ・これから、色々な人のためにがんばってみんなを助けたい。
- ・クラスみんなのためにできることをしていきたい。
- ・おじいちゃんやおばあちゃんのお手伝いをしていきたい。
- ・家族のためにお手伝いをしていきたい。
- ・クラスみんなのために働いて、みんなに喜んでほしい。
- ・困っている人がいたら助けていきたい。
- ・家族や友達のためにできることをしていきたい。

研究協議より

#### 視点1・体験的活動についての工夫

- ・実際の臨場感を出すための雰囲気作りがさらに必要だった教材である。実際は、数百人が何時間もかけて、食料をもらう状況があるので、たくさんの子供に並ばせて、配る苦労やもらう喜び、もらえない感覚など、現実に近い状況をつくとよい。パンを何個も用意、プリントを配るタイミング、「ぼく」になりきるタイミングなども考えるとさらに効果がでるのではないかと。教材資料によって、ロールプレイの人物に自分を重ねやすい物とそうでないものがあるので、いろいろな状況をつくったり、クラスでその雰囲気を作り出したりすることも大切である。

#### 視点2・後半の価値へのせまり方

- ・発問が絞られて、スムーズだった分、もっと児童に対して、意図的に指名し、子供達の視点を広げると最後の部分が深まったのではないかと。普段、活躍しにくい子の「きらっ」輝く考えは、最初に取り上げることで、一定の児童だけが価値に迫ったりせずに意欲を持って、発表の雰囲気もよくなり、自己肯定感も高められるのではないかと考えられる。

### 3. 成果と課題

○授業後の係や当番活動で意欲的に取り組む児童がいる。

○役割演技の際に、お面や実物を用意したことによって、場面に入り込みやすくなった。

▼より場面に入り込むためには、パンを受け取るのは一人ではなく、たくさんの子供を並ばせて行うなどの教材に合った場面設定をすることが考えられる。

▼本時の授業のみでは自己肯定感の高まりは見取るのは難しい。今後とも継続的に子供の頑張りや成長を認めていくことで自己肯定感を高めていくことが必要である。